

施策評価シート ( 令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 04月 04日

施策 No.	1	施策名	確かな学力の育成
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-81-9052
関係課名	学校教育課、科学教育センター		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
児童生徒数	人	6638	6562				

施策の目標	すべての小中学校で、電子黒板やタブレット、デジタル教科書等のICT機器を活用した授業を展開し、学力の向上を図ります。 また、指導する教員は、校務支援システムの活用等により働き方改革を進めることで、子どもに向き合う時間を確保し、教育の質を高めます。
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	・児童生徒の学習の定着度をはかるため、とちぎっ子学習状況調査の教科合計平均正答率の県と真岡市との比較差の数値を使用する。 ・小中学校におけるICT機器の活用状況をはかるため、「真岡市ICT教育基本構想」に基づくICT機器導入率等を使用する。

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
小5とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の県との差 (国語、算数、理科)	目標値	+0.2	+0.3	+0.4	+0.5	+0.6	+0.7	+0.7
	実績値		実施無	+1.2				
中2 とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の県との差 (国語、社会、理科、数学、英語)	目標値	+0.8	+0.9	+1.0	+1.1	+1.2	+1.3	+1.3
	実績値		実施無	+2.0				
学習用PCの導入率	目標値	人/台	1	1	1	1	1	1
	実績値		1	1				
電子黒板の導入率 (普通教室・理科室)	目標値	%	100	100	100	100	100	100
	実績値		100	100				
電子黒板の導入率 (特別支援教室)	目標値	%	78.6	85.8	92.9	100	100	100
	実績値		71.4	73	75.4			
ICT支援員の配置	目標値	回/月	4 (ICTモデル校)	3 (全小中学校)	3 (全小中学校)	3 (全小中学校)	4 (全小中学校)	4 (全小中学校)
	実績値			2.6 (全小中学校)	3 (全小中学校)			
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、学校・家庭・地域と連携して、人間性豊かな子どもを育成する。 行政は、学力向上を図るための教育環境の整備を推進する。
-------------------------	--

## 2. 実行 (Do) →個別事務事業の実施による (事務事業マネジメントシート参照)

## 3. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

### (1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

とちぎっ子学習状況調査の結果より、学力に関する成果指標の実績値については、

- ・小5 とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の県との差:+1.2ポイント
  - ・中2 とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の県との差:+2.0ポイント
- であった。今回の調査の結果、調査対象となった全学年全教科において県の正答率を上回っており、これまでの学力向上についての取組の成果が見られる。

ICT機器の整備については、国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策において児童生徒1人1台端末の整備スケジュールの加速化が示されたことに伴い、令和2年度末までに1人1台のタブレット整備を完了させた。電子黒板については、普通教室・理科室について全教室に整備を完了しており、今後は特別支援教室への整備を進める。ICT支援員の配置については、全校に年間36回(月平均3回)の支援を実施した。さらに、配備した1人1台端末のさらなる活用に向けて、高速大容量の通信ネットワークを整備した。

学力向上に向けた令和3年度の取組状況は以下のとおり

- ・児童生徒1人1人の個性を伸ばし、学習効果を高めるため、複数担任制のための非常勤職員を小・中学校全校に配置している。
- ・真岡市学力向上推進研究会や教員研修会を開催し、各学校の検証改善サイクルの構築と教職員の資質・能力の向上を図った。
- ・「教職2～4年目教員支援事業」「学力向上指導員派遣事業」「魅力ある学校づくり事業」等での学校訪問を通して、授業改善に対する助言を個別に行った。
- ・児童生徒の学力向上に結び付いた市内小中学校の取組について「学力向上実践事例集」を作成して全校に配布し、指導力のさらなる向上を図った。
- ・真岡市総合学力調査の結果と連携したAIドリルを導入し、1人1台端末を活用した児童生徒1人1人に合わせた学習が可能となった。
- ・英語の専科教員を小学校5校、算数等の専科教員を小学校3校に配置している。
- ・理科担当教員の資質向上と小学校の理科専科教員の育成を図るため、指導主事を学校に派遣して「理科担当者研修事業」を実施した。
- ・「理科学習に関するアンケート」より教員が指導する上で苦手意識のある実験・観察を絞り込み、その実験・観察を自信を持って指導できるよう、年10回の「理科実技研修会」を企画し、実施した。
- ・理科の授業を円滑に進められるよう、実験・観察のポイントを記載した「理科指導資料集」を作成し、各校の理科担当者に配布した。
- ・利用希望のあった学校に対し、プラネタリウムを用いて、教科書の内容に沿った天体に関する学習プログラムを行った。
- ・学校図書館の充実と児童の読書活動の推進を図るため、全ての小中学校に6名の専任司書を巡回配置し、読書教育の質的な向上に取り組んだ。
- ・現場の教職員が抱える課題を把握し、今後の人材育成や教育施策の検討に活用するため、本市初となる市内全教職員対象のアンケートを実施した。

今後は、

- ・ベテラン教員の比率が今後低下し、若手の割合が高くなる予測を踏まえ、若手教職員の人材育成を図る。
  - ・感染症等による緊急の学校・学級休業においても子どもたちの学びを保障する体制を整える。
  - ・教職員の働き方改革を進め、教員が子どもたちと向き合う時間を確保するためのさらなる取組を行う。
- 等の課題について検討し、児童生徒のさらなる学力向上を図っていく。

### (2) 今後の方向性 ( (1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

令和4年度の全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査、真岡市総合学力調査の結果について調査分析し、その結果のフォローアップを重視することで、確かな学力の定着を図り、学力の向上を目指していく。また、学力向上推進研究会や指導主事の学校訪問による授業支援等を行い、教職員の指導力向上を図るとともに、複数担任制のための非常勤職員を配置し、個別指導の充実に取り組むことで、児童生徒の学力向上を図る。

またこれまで同様に、各学校の実態に合わせた可能な教科担任制の導入を推進しつつ、どの学校においても一定の教科担任制が実施できるよう、国及び県に対して教職員の定数の改善を要望する。

引き続きICT教育推進校とICT導入重点校を指定し、1人1台端末の効果的な活用方法を研究すると同時に、ICT活用に関する教員のスキル向上を図る。特に緊急時の対応をより円滑に実施できるよう、また、学習用端末を活用した学習のさらなる充実を図っていくため、端末の常時持ち帰りの実施について検討する。さらに、ICT活用に関する教員のスキル向上を推進するための教員研修の実施、ICT支援員との連携の強化を図る。

引き続き「理科担当者研修事業」ならびに「理科実技研修会」を実施し、理科担当教員の資質向上と小学校の理科専科教員の育成を図る。

全教職員対象のアンケートにより抽出された教育課題について具体的な施策について検討し、若手教職員サポートするための校内での取組やアイデアをまとめた事例集を作成する等、若手教職員の人材育成を図る。

教職員の校務支援システム等の活用により、教職員の業務効率化を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保し、教育の質的向上を図る。また、勤怠管理システムの導入に向けた検討等、さらなる教職員の働き方改革推進に向けた施策について検討する。

